

小川町議会議員定数条例の一部改正

定数削減を決定 16人 → 14人

賛成8対反対7

議論白熱

「小川町議会議員定数条例の一部を改正する条例」は、1時間以上にわたる白熱した議論が行われました。反対・賛成討論者は、各3人合計6人で、過去に類をみない討論者数になりました。

反対討論



定数減は
1人がよい
関根慶則

「議員定数検討特別委員会」の出した結論(削減)に反対するものではございません。提出議案の2人削減に反対し、削減は1人に留めるべきと考えます。

議員2人減による議会費の削減(年間1,026万円)は認めますが、他にどんなメリットがあるのでしょうか。人口減少、少子高齢化、デジタル社会の時代だからこそ、議会には多様な人材が必要だと考えます。

地域によって異なる顔をみせる小川町で、可能な限り全町民・全地区の意見を反映していくためには、議員2人の削減は影響が大きすぎると考えます。



今こそ
議員数維持
すべき
五十嵐康博

第一に、議員定数削減の時期が適切ではない点です。少子高齢化への対応など課題が、山積している今でどうか。

第二に、若い世代や新しい人材の立候補機会を守ることです。議員削減は、地区や組織の後押しを受けた候補が有利になるだけです。

第三に、議会のチェック機能と多様化する町民ニーズへの対応です。定数削減は、町民の声を集約できず執行部に対するチェックが弱まるので、町の仕組みが変わった後に、検討すべきではないでしょうか。



多様性が
重要
鈴木秀尚

議員定数の見直しは、人口減少の中でやむを得ないと捉えていますが、その人数は、最小である1人に留めるべきだと考えます。

現議員は、多種多様な知見や経験を生かして、小川町をよくしようと奮闘しています。それを一度に2人減らしてしまうと、多様性をそぐことになります。

様々な課題を抱える町政にあっては、ワンチームで事に当たらないと解決できませんが、皆が同じ方向を向きつつも、多角的・多面的に取り組む必要があります。定数減は「1」に留めるべきではないでしょうか。

反対

田中立男
議員定数の削減は、町民の声を町政に届けるパイプを細くすることになると見え、定数削減には反対です。

大戸久一
定数削減は人口減少の中やむを得ないが、現役世代でも議会参入しやすい環境を整え、熟考の上削減を。

笠原規弘
10年スパンで定数を見直すべきだった。2年後に1人減、10年後に2人減が最適。不利益を被るのは町民だ。

田中照子
なぜ今か。選挙で定数割れがない。若者を議会にと報酬の引上げが課題。見直しは必要だが今ではない。



議長 高瀬 勉

「定数14議会」のスタートに向けて

全議員で約1年半の期間を要してきました。また、昨年12月には置し、全9回に及ぶ会議を重ねる方向性が示されました。

これまでの経緯を踏まえて提1票差で可決。賛否いずれも、苦くありません。

次回（令和9年予定）の一般選今期の残任は、さらなる議会の機「定数14議会」のスタートに向

「定数の見直し」に係る議論を深め、「議員定数検討特別委員会」を設置し、全9回に及ぶ会議を重ねる方向性が示されました。

出された「定数2減」の改正案は渋の決断であったことは想像に難くありません。

次回から定数は「14」となります。能強化と議員の資質向上に努めて、取組を加速していきます。

岡部久志

議員定数検討特別委員会委員として十分な議論を重ね、人口減少の進む中、財政効果も含め、将来を見据えた。

山口勝士

「16人いなければ」は、20年経過「見直し」検討で通用しない。14人で経費削減と時代に合った議会の実現を。

笠原英彦

主権は町民にあり、町民の付託を受けた議員の一人として、地域住民の声（削減）が腑に落ちるので賛成とします。

島崎隆夫

議会には『多様な議員』ではなく『多様な民意を反映できる人』が必要。広聴の充実と機動力を備えれば大丈夫。

高橋さゆり

今後の縮小社会を鑑み、町民に対して、議員自身が身を切る改革を示さなければ町民からの信頼は得られない。

賛成

おがわぎかい No.117 令和7年9月定例会

